

副都心線開業記念(平成20年6月14日)

雑司ヶ谷霊園 MAP



豊島区立中央図書館



雑司ヶ谷旧宣教師館

豊島区
観光案内

雑司ヶ谷霊園MAP



現在の雑司が谷かいわい
歴史の深い懐に抱かれた
そぞろ歩きに「発見」が

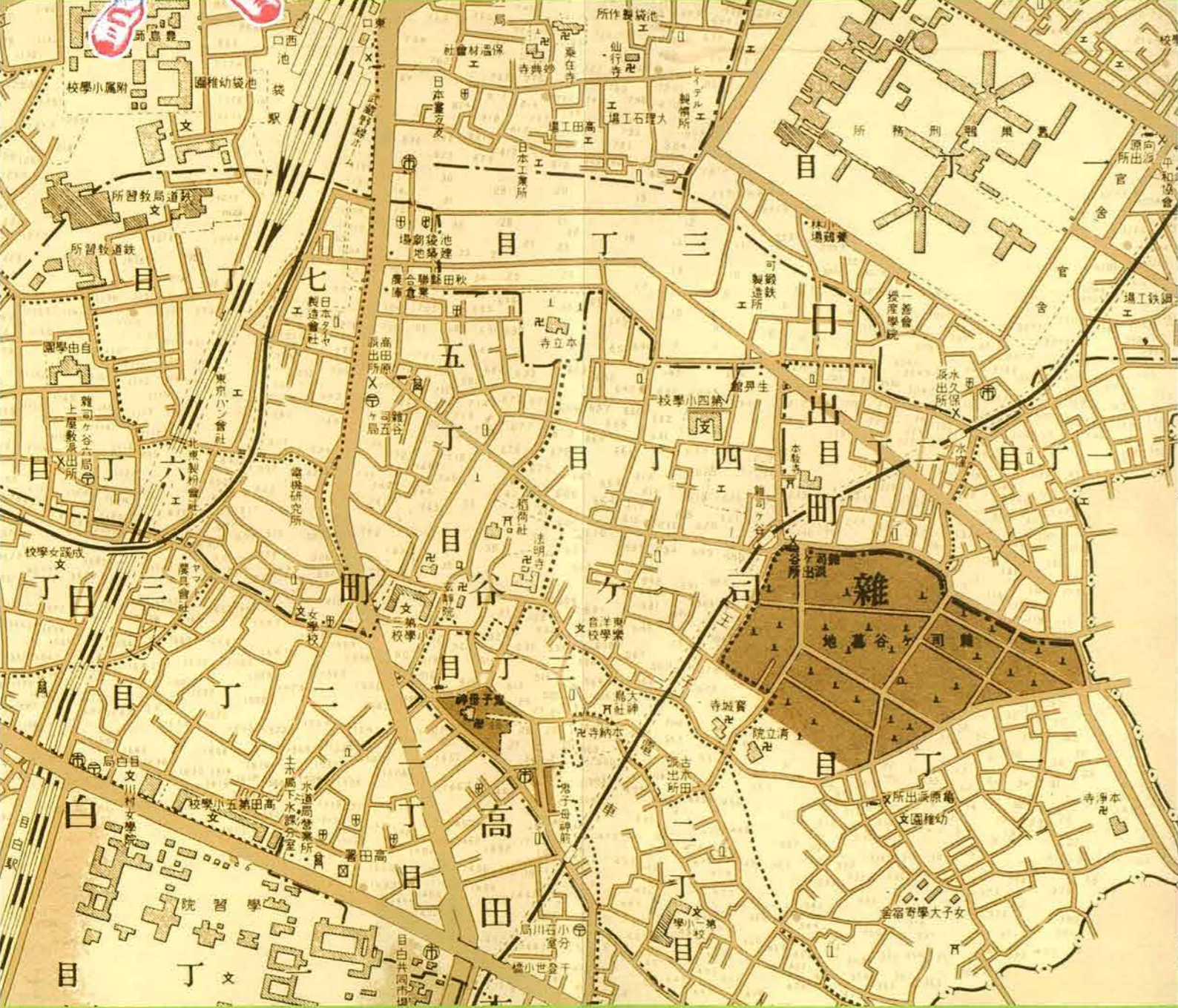
江戸時代を偲ばせる鬼子母神参道の榎並木、法明寺の桜。郷土玩具「すすきみみずく」も今に伝えられ、霊園の東西には「旧宣教師館」「みみずく資料館」もあり歴史の懐の深さが今も残っています。

芭蕉の高弟である雪中庵嵐雪(せっちゅうあんらんせつ)や新劇運動の秋田雨雀(あきたうじゃく)などの眠る周辺の寺に訪れる人も多く、そぞろ歩きに発見がある町です。近くには、新しく開館した中央図書館もあり、散策帰りに歴史書などをひも解いてみてはいかがでしょうか。

昔の雑司が谷かいわい
文人に愛された緑の土地
都市化で川も暗渠に

75年前の左の地図(豊島区発足直後)と地下鉄「雑司が谷駅」のできた現在の右の地図を比べると、大きな変化が見受けられます。池袋東口にあり、詩人三木露風(みきろふう)が住んでいた根津山は削り取られ、護国寺に向かうグリーン大通りとなり、巢鴨刑務所はサンシャインシティへと変わっています。また、雑司が谷を流れ下っていた弦巻川は暗渠となっています。

江戸のころには太田蜀山人(おおたしよくさんじん)ら文人に愛された緑の土地でした。



豊島区
観光案内

雑司が谷旧宣教師館

雑司ヶ谷霊園

御料地として、3代将軍家光の寛永15年(1638)に薬草栽培の御薬園となり、8代将軍吉宗の享保4年(1719)には御鷹部屋に変わり、将軍の鷹狩りに使う鷹の飼育場所として使われていたところです。御鷹部屋時代の松の大樹が今も霊園内に残っています。明治7年(1874)9月1日に東京市によって共同埋葬墓地となりました。現在の地番は南池袋四丁目25番。広さは約10万㎡です。

「番地入新大東京市三十五区分図之内 豊島区詳細図」(部分 1933年発行)
(豊島区立郷土資料館編集「豊島区地域地図 第1集」(1987年発行)所収のものを使用)

発行：豊島区文化観光課
東京都豊島区東池袋1-18-1
TEL: 03-3981-1316 FAX: 03-3981-3069
E-mail: A0014503@city.toshima.lg.jp
執筆：伊藤榮洪(豊島区図書館専門研究員、元区史編纂委員)
イラスト：矢口由美子(デザイン室あとりえ)
印刷：西武写真印刷株式会社
2008年3月発行
豊島区観光案内ホームページ
<http://www.city.toshima.tokyo.jp/kankou/>

